

20歳～40歳までの独身男女あつまれ!

「すわコン2011」 ※参加費無料

諏訪圏青年会議所では参加費無料で出会いの場を提供します。当日は仲間と協力しゴールを目指すミステリーウォークラリーを行います。もちろんグループでの参加もOKです!

更に抽選で別日にナイトクルージングの花火観覧も!?

日時: 8月20日(土) 受付15:00~15:30 スタート16:00

会場: 高島城内公園

対象: 諏訪圏及び近隣住民20歳~40歳の独身男女

定員: 300人(男女各150人) ※参加人数を超えた場合は抽選です。

申込方法: 電話・ホームページ・FAXから

(詳しいイベント内容はホームページをご覧ください。)

■お問い合わせ先 公益社団法人諏訪圏青年会議所

電話: 54-6980 (10時~15時)

URL: <http://www.suwaken-jc.jp/suwakon>

諏訪広域連合 Present's『FM長野 合コン大作戦』開催

諏訪広域連合では、市町村の枠を超えた参加者による出会いの場を提供するイベントを開催します!

日時: 8月27日(土) 午後2時~午後9時30分

会場: ベルファイン(諏訪市)

形式: お見合い&立食パーティー

対象: 25歳以上の独身男女

募集人数: 男女各50人

参加費: 男性5,500円 女性3,500円

申込期限: 8月12日(金)まで

申込方法: お申込みはFM長野ホームページから

※ <http://www.fmnagano.co.jp>

■お問い合わせ先 FM長野 電話0263-33-4400



~郷土かるたで故郷発見~

いた。当時は武力の中心は騎馬であり、また駄馬、駄馬として必要なのであったから、馬の飼育は重要な産業であった。しかしその牧制も次第に崩れて、御牧すなわち皇室の牧場が変わっていった。延喜式によれば、信濃の御牧は十六あった。その中には、諏訪の山鹿・塩原・岡の屋の三牧が記されていた。御牧は勅旨御牧といわれて、朝廷の御用馬が目的であった。信濃の十六御牧は貞観年中(八五九~八七六)には二千二百七十四頭の馬があったといわれる。筑紫の僧宗久、貞治五年(一一三六六)の作に「引き分けておかやに立つしあら駒のみなれぬ袖におどるきやせん」とあるほど岡屋の牧は世に知られていた。



め 名馬なり岡の屋牧の荒き駒

その昔信濃の国は名馬の産地であった。奈良時代から平安時代にかけて、信濃の国には国牧があった。母馬百頭について六十頭の駒を京に送って、代から平安時代にかけて、信濃の国には国牧があった。奈良時代から平安時代にかけて、信濃の国には国牧があった。母馬百頭について六十頭の駒を京に送って、

諏訪のいろはかるた (15)

全国各地に存在する郷土かるた。多くは絶版となり現在では入手が困難です。ふるさとの財産「諏訪いろはかるた(信濃文化研究会作成)」に詠われたかるたを紹介します。



ドラマ「それでも、生きてゆく」下諏訪町で撮影

7月7日からフジテレビ系で好評放映中のドラマ「それでも、生きてゆく」の撮影が下諏訪町あすなる公園で行われ、「お祭りに来ている一般客役」で合計540人がエキストラとして出演しました!



ご協力ありがとうございました。



みんなの願いを聞いてくれる
大きいお耳。



8	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

8月の暦 お舟まつり
河西 道雄 作

のはらうたI V
童話社
と作
こな
おん
なみ
うん
きだ
せと
始まる
威勢の
良いこ
の詩は、
どの子
もすつ
かりか
まき
くのは
らうた
りに成
りきつ
て前の
めりで
聞いて
目をき
らきら
させる
そんな
詩です。
発行以
来、多
くの人
に愛さ
れ続け
ている
「のは
らうた
」。の
はらみ
んなの
つぶや
きが詩
になっ
て、優
しく、
力強く
私達に
語りか
けてき
ます。ま
た、小
さな子
供だか
らこそ
感じる
喜びの
ある詩
がいっ
ぱいす
。子供
達と声
に出し
て読み
ながら
楽しんで
下さい。
(井出千穂)

スープ・オペラ
新潮社
阿川 佐和子 作
スープ・オペラ
阿川 佐和子 作
育ての親である叔母が突然恋人と家を出た。ルイは叔母の残した古い家に一人暮らしすが、庭先に現れた怪しい中年男性トニーさんと古い家を愛する青年康介が家に転がり込んできて…。共同生活のルールは皆でご飯を食べること。献立にはスープを入れること。三人の奇妙な共同生活が始まります。大切な人と一緒にご飯を食べて、おいしいスープを飲む。それだけで幸せな気持ちになる。昨年映画化もされた阿川佐和子さんの心温まる一冊です。
(加藤みどり)

町図書館から
今月のおすすめ本